

コミュニケーション力を育てる情報科の授業実践

聖母被昇天学院中学校高等学校 情報科社会科教諭 岡本弘之
okamoto@assumption.ed.jp

1. はじめに

- ・情報科で育てたいのは「コンピュータスキル」より「コミュニケーションスキル」
- ・「伝える」実習と「グループワーク」を取り入れた実習でコミュニケーション力を育てる情報科の授業をめざしたい！

↓

- ・高校2年生の「選択情報」で実践してみた1年間のカリキュラム ※2013年度までは「情報C」、2014年度～「選択情報」

2. 選択情報2単位の授業項目

- #### 1 学期
- ①復習：時間割の制作
Wordを使って時間割表を作成する
 - ②身の回りの情報を考えよう (グループワーク)
新聞、ロコミなど情報源の特徴を考える
 - ③デジタルと情報量の単位を学ぼう
アナログ・デジタルの特徴・情報量の単位を学習する
 - ④イメージポスターを作ろう
Photoshopを使って画像を加工しポスターを制作する
 - ⑤取材して記事を書こう
人に取材・インタビューして雑誌の記事風にまとめる
 - ⑥SNSの賢い利用・活用を考えよう (グループワーク)
SNSの注意点・利点を自分たちの経験話し合い学ぶ
 - ⑦-2ネットの安全利用の標語を作ろう
ネット安全に賢く使うための標語を考えコンテストに応募する

- #### 2 学期
- ⑧情報発信をめぐる問題を考えよう (グループワーク)
不適切投稿事件を題材にネット社会の課題を考える
 - ⑨CMを研究しよう
気になったCMについて分析し、発表する
 - ⑩CMを制作しよう
PowerPointのオートスライド機能を使ってCMを制作する
 - ⑪著作権を考えよう
自分の作品を公開することを考え 著作権について学ぶ
 - ⑫学校施設の改善案を考えよう (グループワーク)
問題解決の実習として調査・分析・改善のプレゼンまで行う

- #### 3 学期
- ⑬動画で学校紹介を作ろう (グループワーク)
デジタルカメラを使い学校の特色を紹介する短い動画を作る
 - ⑭メディアリテラシーを考えよう
映像を作成した経験した気付きからマスメディアの特性を考える
 - ⑮私のメディア史を作ろう
今まで関わってきたメディアとその影響について考える

3. まとめ

- ・生徒たちは「伝える」ことを意識した制作・文章作りは意外に経験が少なく、この授業は貴重な機会であった
- ・グループワークで付箋を使った話し合い・KJ法を繰り返す中で意見の質・量、話し合いのスキルも向上した
- ・「伝える」ためにコンピュータスキルも身についた
- ・学校行事・生徒会活動への波及が見られた

勤務校の情報科の授業実践について、授業プリント・スライドも含め、右のページで公開しています。
※「情報科 授業」で検索

「情報科の授業アイデア」
<http://www.okamon.jp>

グループワークは付箋とKJ法で全員参加！

◎話し合いの進め方（共通）
・付箋に個人の意見→班でKJ法で整理→発表

画像と文字で伝える ～④イメージポスターを作ろう～

課題：加工した画像と・キャッチコピーでメッセージを伝えるポスターを作る
手順：実際のポスターの研究→企画書作成→画像編集・制作→相互評価

文章と写真で伝える ～⑤取材して記事を書こう～

課題：一人または複数の人に取材して、多くの人に伝わるような記事にする
手順：記事・見出しの研究→企画書作成→取材実施・記事入力→相互評価

ネット上のコミュニケーションを考える ～⑥SNSの賢い利用・活用を考えよう～

課題：SNSの気をつける点、便利な点を経験や調べて話し合いまとめる
手順：経験記入・調査→話し合い→発表で共有

標語で伝える ～⑦-2ネット安全利用の標語を作ろう～

課題：ネットを安全に賢く使うための標語を作成
完成した標語は校内掲示し、作品は応募
手順：経験の振り返り→標語の作成→掲示・応募

画像・文字・音楽で伝える ～⑩CMを制作しよう～

課題：15～30秒程度のメッセージを伝えるCMを作ります。画像・文字・音楽を使い、オートスライド機能でCM風に仕上げます
手順：企画書→音楽編集→制作→相互評価

プレゼンテーションで伝える ～⑫学校施設の改善案を作ろう～

課題：学校施設の分析をKJ法・ブレンストーミングで行い、そこで上がった課題についての改善案を考え、根拠をもってプレゼンテーションを行う
手順：分析→提案の企画→調査・制作→発表→相互評価

動画で伝える ～⑬動画で学校紹介を作ろう～

課題：3分程度の学校の紹介（全体でも一部でもよい）の動画を作る
手順：企画書・絵コンテ作成→デジカメで撮影→ムービーメーカーで編集

「全国高等学校情報教育研究会全国大会」
ポスターセッション発表
(2014.8.12 東洋大学)